

**課題名：**

NCDデータを用いたCOVID-19の日本の呼吸器外科手術に対する影響の研究

**研究の目的：**

2020年はCOVID-19感染蔓延下の状況で外科手術を行う事態となり、本来は手術が必要である疾患に対して、手術トリアージなどにより疾患や症状によっては手術の延期や代替治療を施行するなどの対処がなされたと想定される。また、受診控えやがん検診の中止および規模縮小により、肺癌をはじめとした手術対象疾患の早期発見に支障を来したと考えられる。National Clinical Database (NCD) データを用い、COVID-19感染下の日本での呼吸器外科手術状況の概要および代表的な術式の施行件数が通常の年と比較し、どのように変化したかを把握し、特に疾患・進行度・術式による違いを重点的に解析することを研究目的とする。

**研究の方法：**

NCD登録された外科手術データを利用した後ろ向き研究を行う。  
評価項目は手術件数、術前・術後因子、すべての呼吸器外科手術数と解析対象の4疾患（原発性肺腫瘍・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍・気胸）に対し、2014～2020年を比較し、手術件数・進行度・術式等の変化を解析する。

**研究機関：**

研究責任医師：佐藤幸夫

研究事務局：筑波大学 呼吸器外科 茨城県つくば市天王台1-1-1

**データの収集方法：**

NCDの会員である日本呼吸器外科学会の2021年NCD研究（毎年3課題採択）の一つとして施行する。

NCDデータはすべて匿名化されたデータであり、参加施設はすべて施設承認を取得済みである。

**研究実施期間**

倫理審査承認後～2022年6月30日

**本研究に対する問い合わせ・苦情等の連絡先：**

佐藤幸夫

筑波大学医学医療系

連絡先：029-853-7991

